

# 本書の使い方

本書は、小学校から高等学校における9つの教科で構成されています。はじめに小学部、中学部、高等部の教科担当者が検討を重ね、脳性まひ児の、① 学習の難しさがよくあらわれる場面や分野を絞り込みました。それらを[○○科であらわれる学習上の困難「□□」編]と表記して各教科の【場面・分野における概要】を整理しました。

見開き2ページには、学習の難しさが見られる場面・分野の、② 子どもの具体的な様子を挙げ、その様子が生じる③ 考えられる背景を探り、それに対して有効だと考えられる④ 手だての方向性(例)を示しています。

## 【場面・分野における概要】

① 学習の難しさがよくあらわれる場面や分野

③ 考えられる背景

② 子どもの具体的な様子

④ 手だての方向性(例)

対応

⑤ 具体的な学年と単元

⑥ 背景

⑦ 手だての方向性(例)

⑧ 実践した指導例と手だてのポイント

そして次ページ【指導例】では、学習上の困難が生じることが多い⑤ 具体的な学年と単元 の一例を示し、それぞれの場面で顕著に表れている⑥ 背景 と⑦ 手だての方向性(例)を整理し、そこから具体的な手だてを構築して、⑧ 実践した指導例と手だてのポイントを紹介しています。各事例は見開き2ページの形式としています。

【場面・分野における概要】③④は、それぞれ【指導例】⑥⑦に対応しており【指導例】ではより具体的な背景と手だての方向性を示しています。

指導をしている子どもを目の前にして、「こんな時はどうすれば良いのだろうか?」と思った時は、目次から教科とその状況に近い場面を探してご活用ください。

## 【指導例】

⑤ 具体的な学年と単元

⑥ 背景

⑦ 手だての方向性(例)

⑧ 実践した指導例と手だてのポイント

対応